

『親って何者・・・？』

グループホーム やえざくら職員 貴嶋



私は4人の子どもの親です。自分の価値観に合わない娘を理解せず心の病に陥らせてしまったヤバい経験を持っています。その娘の激しい反発、ダメ出しを受けて反省し（自分のやり方が間違っていたと思うに至るまでは苦しかったです。）一応、娘は社会生活ができるまでになりました。全て娘が乗り越えた結果と思っています。そんな私が障がいを持つ親御さんとかかわる仕事をさせていただいていますが、同じ親として「きっとどれだけの苦労や辛い思いがあったのだろうか。心配で心配で仕方がない気持ちなんだろうな。」と思います。ところがどっこい、私がかかわらせていただいた施設やグループホームに入居されている利用者の皆さんは、それは、それは、たくましく意外としたたかでその環境に上手に適合すべく嫌いなスタッフに反発し、思いが伝わらなければ暴れてみたり、脱いでみたり、倒れてみたり、漏らしてみたり、吐いてみたり・・・WWW 支援者はそんな行動を不適・不穏行動としていますが、私の経験から私達が対応を変えると（反省しご本人の思いを考え理解しようと頑張ると。）みるみると不適切行動がなくなるのです。うるさい関わり方、上から目線、管理的なやり方に反発が多いように思います。まあ、普通そうですよね。だから、支援者側から「ああせい。こうせい。」をなるべく言わないようにしています。皆さん、指示されないので自分の思いを自分で示すようになります。私達は訴えて来られたことを実現できるようにしていきます。すると、信頼関係ができてきて私達の言うことにも反発しなくなるのです。ところが、親御さんは子どもが、30歳でも40歳でも60歳になっても「知的障害者」表現できない子どもとして「この子はこうなんです。」と言い続けます。「親である私こそがすべてを知っている。」と。「代弁者である。」と。

あるグループホームで出会った重度のFさん（40代）は大声を上げ生活介護へ行きません。職員はお菓子やコーヒーで赤ちゃんをあやすように毎日必死で送り出していましたが、ある時、生活介護で支払われる給料（数百円）を本人に渡したら（ずっと親御さんが受け取っていました。）普通に行くようになりました。実は子どもじゃありません。コミュニティの中で成長しています。ましてやグループホームという共同生活の中で何年も暮らしているのですから自分を変え、人に合わせ、自分の思いを示していかなければ生きられません。皆、大人の感性を持ち、親には見せない自立心の姿があるのです。

障害者の親が過保護だの過干渉だのと避難されないのは何故でしょう。障がい者も過干渉が大嫌いですよ。親だとしてもその子どもの心の奥底の尊厳には踏み込んではいけないと思います。今ある姿は全て本人の努力であり乗り越えた姿です。

グループホームという親が経験したことのないコミュニティを住まいとして自立した暮らしをしているのです。なんと親孝行な姿でしょう。

親の皆様、大人になった我が子を誇りに思うとともに手放して上げてください。信じて見守ることこそが「親なき後の暮らし」を実現に導く親の使命かと私もようやく思えるようになりました。親の思いは尽きませんが親とは違う一人の人格者ですから。